

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院1072-1
自己評価作成日	平成23年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「その人らしく有り続けるために」を念頭に支援を行っている。
 ②健康を保ち楽しんで生活していただけるよう3日体操や音楽療法、畑作業、お出かけ等行っている。
 ③運動会や盆踊り、秋祭りなど町内会行事への参加やホーム主催で各種行事を計画し、近隣住民との交流を積極的に行っている。また、ホーム主催の夕涼み会実行委員会にはご家族様や近隣住民の方も一緒に参加していただき楽しい行事となっている。
 ④併設型施設の有利性を活かしてコンサートや敬老会、消防避難訓練、クリスマス行事をデイサービス利用者様と一緒に取り組み、日常的に交流がはかられている。
 ⑤運営推進会議で他施設(グループホーム 姫の華様)との相互交流で研鑽を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経験豊かな管理者やベテラン職員、新人職員は協働しながら、利用者一人ひとりの「その人らしい生活」を支援している。協力医療機関と24時間の連携体制を整えており、様々な職種と協力しながら利用者の安定した生活を支えるよう努めている。地域の住民との交流も積極的に行われており、利用者が地域の一員として生活できるよう取組みがされている。利用者一人ひとりの日常の状態をよく把握し、一人ひとりに合った対応を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 すみれの家

(ユニット名) 根っこ

記入者(管理者)
氏名 山本 誠一

評価完了日 23年 10月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 職員は、法人全体の基本理念を軸に、穏やかで安心感のある充実した生活を送ることができるよう、常に話し合いながら支援をしている。職員一人ひとりが理念に沿った支援が行えるよう、個人面談や振り返りをしながら意識付けを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域で開催される運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭などに参加し、入居者様と共に交流を図っている。地域内の他施設(グループホーム姫の華)と運営推進会議への相互交流を行っている。医療講演や夕涼み会、秋の味覚祭など計画し、ご家族様はじめ地域の方、通所サービス利用者様との交流を進めている。</p> <p>(外部評価) 開設以来、地域のいろいろな行事に参加したり、中学校の職場体験学習を受け入れている。また、事業所の行事にも参加を呼びかけ、利用者と共に相互交流を続けている。新たに味覚祭として、中山町の産直市を事業所で開催する等、新たな取組みを行っている。</p>	これまで培った地域との交流に加え、産直市等の新しいことに挑戦して行き、事業所がさらに地域の一員として溶け込むことにより、利用者の生活が充実したものになるよう、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎年津田中学生の職場体験学習の場としてホームを提供させて頂いている。その際は入居者様とふれあい、障害を学ぶ場としても活かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2カ月毎に開催されており、家族様/地区の委員様/市町村の担当者様を交えて話し合いサービス向上に繋がるご意見を頂戴し、ホームの運営に反映できている。	
			(外部評価) 運営推進会議は定期的開催され、運営の報告等が行われている。参加者のそれぞれの立場からの意見や提案が出され、それに対する事業所の返答もきちんと行われている。分かりやすくまとめられた議事録は、玄関に掲示されている。会議で話し合われたことは職員間で共有され、サービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃からホームの運営等についてご相談や指示を仰ぎ、2ヶ月毎の運営推進会議開催にご協力いただいている。	
			(外部評価) 介護保険課の担当者や地域包括支援センターの職員は毎回、運営推進会議に参加している。事業所の取組みに対する意見や助言をしてもらう等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間等、ベッドで休んで頂く時や転倒の恐れがあると思われる時はご家族様と相談し、4点柵等拘束の同意書を頂くようにしている。ユニットが2階で入口の傍に階段があるため、危険防止のため、やむを得ず入口の施錠が常態化している。ユニット長会議で毎回議題にし、身体拘束を排除する取り組みを行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について正しく理解している。止むを得ず行う場合には、必要最低限にとどめるよう家族を含め何度も話し合いを行い、適切なケアが実践されるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会議やミーティングで虐待防止を呼び掛け入浴時や更衣時に身体の確認をしている。声かけなど常に気をつけて気になる事があればその場で注意指導している。また、外部の「虐待防止」講習会等に職員の参加を進め意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。またご返答のタイミングはスピードを重視している。 (外部評価) 家族会を開催し家族だけで話し合う時間を設ける等、意見を表せる機会を作っている。日々の支援の内容や、利用者の日常の生活の連絡や報告を密に行っており、話しやすい雰囲気づくりや関係づくりに努めている。意見や要望を真摯に受け止め迅速な対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者が日常的にユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ社内メールや電話にて統括部長に相談している。また2週間に一度のユニット長会議や毎月開かれるユニット会議にも管理者が出席して意見交換をおこない、グループ全体の会議の際にホームからの意見や提案等を伝える。</p> <p>(外部評価) 職員は管理者と話しやすくいつでも意見や要望を言える関係が構築されている。また、管理者は、職員との個人面談を行い、思いや考えを把握するよう努めている。職員の意見や要望に対して迅速な対応を心がけている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務シフト作成時には労働パターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフトに2回程度)反映できるよう考慮している。9月から全職員との個人面談を行いご意見を頂いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求める「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心を追求する努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 「これまでと変わらない生活」を意識し支援しております。ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは基本的にいつでも対応可能としている。またご本人様の希望に応じて、時にはご家族様に支援の協力(お墓参り等)を頂いたりしている。 (外部評価) 利用者がこれまでに築いてきた人や場との関係を大切にしよう心がけている。特に家族には、連絡や連携、報告等を密に行い、いつでも面会に来れるよう良好な関係づくりに努めている。入居後新たに築いた人や場所との関係も大切にし継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者が孤立することなく、共に暮らす中で助け合えるよう、レクレーションや行事に参加して頂くなど共通の話題作りを提供し、生活を楽しめる様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了は殆どが死亡退去か病院でのターミナルを希望されるケースとなるため、どうしても関係性が薄れていく。職員がお見舞いに行ったり、ご家族とお会いする時など必要時は相談を受けたりしている。ホームや病院で亡くなられた方を入居者と一緒に見送る事ができればと思うが、今は未だ出来ていない。いずれは行きたい。小さい施設なので場所の問題もあって難しいがメモリアルルームができると良いと思う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。(花作りや野菜作り) (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で得る情報は多く、あたらしい気づき等を職員全員で共有するために記録の工夫を行っている。その記録をもとに、利用者一人ひとりの思いや意向について職員間で話し合い、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1カ月(退院時も含む)、その後は3カ月に一度更新を基本としている。またケアカンファレンスを1カ月に1度ユニット会議でおこなっている。</p> <p>(外部評価) 介護計画には利用者や家族の意見や要望を取り入れ、担当の職員が主になり、職員全員で話し合いをしながら作成している。見直しは定期的に行っている。また、利用者の状態に変化が生じた時には、話し合いを行い見直しを行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) ボランティアとしては、7月より2ヶ月に1回程度シッルビアンナイトの方が来られ、演奏会を開いてくれる。10月には中山町の方が来られ、地域の方を交えた秋の味覚祭を行う予定となっている。また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ徒歩で出向く事も行っている。今後更に向上を図っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に24時間対応が可能な連携病院との契約をお願い し、2週間に1回訪問診療を受けている。ユニットに よって訪問日が異なるため、必要時は毎週診て頂く事 が可能となっている。馴染みの先生で安心適切な医療 を受けられるように支援している。また状態やご希望 があれば、他病院の受診もご家族様にご相談し、対応 に関してご家族若しくは施設対応か決定し柔軟に対応 している。 (外部評価) 希望するかかりつけ医での受診や、協力医の定期的な 往診を受けることができる。また、利用者の状態に よって柔軟に対応できるよう医療体制が整えられてい る。家族の協力を得ながら受診支援が行われており、 適切な医療が受けられるよう情報交換が十分に行われ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行い必 要時は主治医へ連絡し指示を仰いでいる。また2週間に 1度の訪問診療時には状態を医師へ報告し個々の利用者 が適切な受診や看護を受けられるように支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、病院関係者と情報交換を行っている 。また入院中も出来る限りお見舞いに行き最新情報 を取り入れることとしている。(入院時には、基本情報 やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退院 時もほぼ同様)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説 明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理 者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた 方針の共有と支援について話し合いを行っている。同 時に看取りケアプランを作成し(連絡/相談/報告しなが ら1週間に1度見直し)職員全体で支援に取り組んでいる (外部評価) 医療機関と24時間の連携体制を構築している。看取 りの経験のある職員を中心に勉強会を行い、受け入れ 体制を整えている。利用者の状態に応じて家族と十分 話し合いを行い方針を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回程度の消防訓練は行っているが災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていきたい。 (外部評価) 災害に関するマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。訓練等を実施した際の反省点や気づいた問題点について検討したいと考えている。スプリンクラーの設置も完了している。	避難訓練等を行った際の反省点や問題点を活かし、より具体的な想定での訓練を行ったり、災害に対する体制づくり等を検討し、利用者が安心して生活が送れるよう今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 基本理念である「その人らしい生活」を支援するため、利用者一人ひとりの日常の状態をよく把握し、一人ひとりに合った対応を心がけている。言葉づかいで不快な思いをさせないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場数を多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者個人個人に合うよう支援しています。爪切り等も気をつけてる	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を聞いてメニューに取り入れる。調理の準備を危なくない範囲でやっていただく。準備や片づけ等それぞれ分担してやっていただき、お互いに助け合ってやっていく。 (外部評価) 利用者の好みや季節の物を取り入れながら、職員が立てた献立を各ユニットで調理している。職員も利用者と一緒に食卓を囲み同じ物を食べながら、さりげなく介助したり、会話を楽しむ等、和やかな時間となっている。外食も利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はその方が食べれる量を盛ったり、嫌いな物に関しては、代替りの物を用意したり、無理なく食べて頂くよう声かけをしている。介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄管理表に時間毎記入している。その上で排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をし、自然な排泄ができるよう対応してる。また、排泄後の処理などプライバシーを保てるように努めてる。	
			(外部評価) 排泄のリズムが崩れると体調にも影響してくるため、排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い、自然な排泄ができるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品を朝食時に食べて頂いてる。また、野菜類が多く摂れるようメニューを工夫して自然排便につながるようにしてる。2～3日無い時は緩下剤の服用もして頂いてる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があればできるだけ対応するようにしている。また、入浴時のバイタルチェックや水分補給に努め、脱水状態にならないように気をつけている。利用者が安楽に入浴できるよう雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) 利用者の希望に合わせ、いつでも入浴できるように準備している。気持ち良く入浴してもらいたいと一人づつ毎回風呂場の掃除をし、新しい湯を入れている。入浴の苦手な利用者には無理強いすることなく、タイミングや声かけ等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調の具合や寒がり暑がりの方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度の夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促し又の楽しみを話し語り合う。就寝前のトイレ誘導をする。水分補給をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録に往診時の内容や薬の変更等について記入し、職員全体で確認できるようにしてる。また、一目で分かるよう毎食後薬セットを用意して誤薬防止に努めている。訪問診療時に処方が変わった時は申し送り簿で注意を促している。症状の変化の有無を常に話し合っていくようにしてる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビや新聞を見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お出かけの計画を立てる前に入居者様から希望を伺っている。皆さんその日が来るのを大変楽しみにされている。また、なるべく全員が出かけられるよう体調の管理に気をつけている。 (外部評価) 月1回は利用者の希望を取り入れながら外出や外食ができるよう、ユニット毎に計画や準備を十分に行い実施している。近所の美容院に行ったり家族との外出を楽しんだりしている。また、併設のデイサービスに出かけ交流する等、外出等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小口現金をユニットで管理している。お出かけの時にご自分で払える方にはお金を渡して買い物など支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人からお手紙を出すことはほとんどないが、ご家族様からのお手紙が届くと嬉しそうに笑顔が見られる。電話は職員が窓口となり、ご本人とご家族様が直接話すことができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしていく。毎日、掃除機をあて空気の入替え等も行っている。	
			(外部評価) リビングは、家庭的な雰囲気を保ちながら季節を感じることができるよう飾り付けがされている。食卓テーブルの配置や利用者の目線に合わせた高さに物を置く等、細部にわたり配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや椅子に腰を掛けて、気の合った方どうしがお喋りができるような工夫してる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご入居時にユニット畳若しくはフローリングどちらかを選択して頂いている。家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。	
			(外部評価) 企業の社員寮だった建物をリフォームしており、居室のしつらえには生活感がある。使い慣れた物や好みの物を持ち込み、利用者一人ひとりに合った居心地のよい居室づくりがされている。各居室にはベランダがあり植物を置いたり、外気浴を楽しむこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫を行っている。また、リビングや居室もご入居者が使いやすいよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院1072-1
自己評価作成日	平成23年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①「その人らしく有り続けるために」を念頭に支援を行っている。
- ②健康を保ち楽しんで生活していただけるよう3日体操や音楽療法、畑作業、お出かけ等行っている。
- ③運動会や盆踊り、秋祭りなど町内会行事への参加やホーム主催で各種行事を計画し、近隣住民との交流を積極的に行っている。また、ホーム主催の夕涼み会実行委員会にはご家族様や近隣住民の方も一緒に参加していただき楽しい行事となっている。
- ④併設型施設の有利性を活かしてコンサートや敬老会、消防避難訓練、クリスマス行事をデイサービス利用者様と一緒に取り組み、日常的に交流がはかられている。
- ⑤運営推進会議で他施設(グループホーム姫の華様)との相互交流で研鑽を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経験豊かな管理者やベテラン職員、新人職員は協働しながら、利用者一人ひとりの「その人らしい生活」を支援している。協力医療機関と24時間の連携体制を整えており、様々な職種と協力しながら利用者の安定した生活を支えるよう努めている。地域の住民との交流も積極的に行われており、利用者が地域の一員として生活できるよう取組みがされている。利用者一人ひとりの日常の状態をよく把握し、一人ひとりに合った対応を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの家

(ユニット名) 葉っぱ

記入者(管理者)
氏名 山本 誠一

評価完了日 23 年 10月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 職員は、法人全体の基本理念を軸に、穏やかで安心感のある充実した生活を送ることができるよう、常に話し合いながら支援をしている。職員一人ひとりが理念に沿った支援が行えるよう、個人面談や振り返りをしながら意識付けを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域で開催される運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭などに参加し、入居者様と共に交流を図っている。地域内の他施設(グループホーム姫の華)と運営推進会議への相互交流を行っている。医療講演や夕涼み会、秋の味覚祭など計画し、ご家族様はじめ地域の方、通所サービス利用者様との交流を進めている。</p> <p>(外部評価) 開設以来、地域のいろいろな行事に参加したり、中学校の職場体験学習を受け入れている。また、事業所の行事にも参加を呼びかけ、利用者と共に相互交流を続けている。新たに味覚祭として、中山町の産直市を事業所で開催する等、新たな取組みを行っている。</p>	これまで培った地域との交流に加え、産直市等の新しいことに挑戦して行き、事業所がさらに地域の一員として溶け込むことにより、利用者の生活が充実したものになるよう、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎年津田中学生の職場体験学習の場としてホームを提供させて頂いている。その際は入居者様とふれあい、障害を学ぶ場としても活かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2カ月毎に開催されており、家族様/地区の委員様/市町村の担当者様を交えて話し合いサービス向上に繋がるご意見を頂戴し、ホームの運営に反映できている。	
			(外部評価) 運営推進会議は定期的開催され、運営の報告等が行われている。参加者のそれぞれの立場からの意見や提案が出され、それに対する事業所の返答もきちんと行われている。分かりやすくまとめられた議事録は、玄関に掲示されている。会議で話し合われたことは職員間で共有され、サービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃からホームの運営等についてご相談や指示を仰ぎ、2ヶ月毎の運営推進会議開催にご協力いただいている。	
			(外部評価) 介護保険課の担当者や地域包括支援センターの職員は毎回、運営推進会議に参加している。事業所の取組みに対する意見や助言をしてもらう等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間等、ベッドで休んで頂く時や転倒の恐れがあると思われる時はご家族様と相談し、4点柵等拘束の同意書を頂くようにしている。ユニットが2階で入口の傍に階段があるため、危険防止のため、やむを得ず入口の施錠が常態化している。ユニット長会議で毎回議題にし、身体拘束を排除する取り組みを行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について正しく理解している。止むを得ず行う場合には、必要最低限にとどめるよう家族を含め何度も話し合いを行い、適切なケアが実践されるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会議やミーティングで虐待防止を呼び掛け入浴時や更衣時に身体の確認をしている。声かけなど常に気をつけて気になる事があればその場で注意指導している。また、外部の「虐待防止」講習会等に職員の参加を進め意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。またご返答のタイミングはスピードを重視している。 (外部評価) 家族会を開催し家族だけで話し合う時間を設ける等、意見を表せる機会を作っている。日々の支援の内容や、利用者の日常の生活の連絡や報告を密に行っており、話しやすい雰囲気づくりや関係づくりに努めている。意見や要望を真摯に受け止め迅速な対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者が日常的にユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ社内メールや電話にて統括部長に相談している。また2週間に一度のユニット長会議や毎月開かれるユニット会議にも管理者が出席して意見交換をおこない、グループ全体の会議の際にホームからの意見や提案等を伝える。</p> <p>(外部評価) 職員は管理者と話しやすくいつでも意見や要望を言える関係が構築されている。また、管理者は、職員との個人面談を行い、思いや考えを把握するよう努めている。職員の意見や要望に対して迅速な対応を心がけている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務シフト作成時には労働パターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフトに2回程度)反映できるよう考慮している。9月から全職員との個人面談を行いご意見を頂いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求める「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心を追求する努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 「これまでと変わらない生活」を意識し支援しております。ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは基本的にいつでも対応可能としている。またご本人様の希望に応じて、時にはご家族様に支援の協力(お墓参り等)を頂いたりしている。 (外部評価) 利用者がこれまでに築いてきた人や場との関係を大切にしよう心がけている。特に家族には、連絡や連携、報告等を密に行い、いつでも面会に来れるよう良好な関係づくりに努めている。入居後新たに築いた人や場所との関係も大切に継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様が孤立することなく、共に暮らす中で助け合えるよう、レクリエーションや行事に参加して頂くなど共通の話題作りを提供し、生活を楽しめる様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了は殆どが死亡退去か病院でのターミナルを希望されるケースとなるため、どうしても関係性が薄れていく。職員がお見舞いに行ったり、ご家族とお会いする時など必要時は相談を受けたりしている。ホームや病院で亡くなられた方を入居者と一緒に見送る事ができればと思うが、今は未だ出来ていない。いずれは行いたい。小さい施設なので場所の問題もあって難しいがメモリアルルームができると良いと思う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。(花作りや野菜作り) (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で得る情報は多く、あたりらしい気づき等を職員全員で共有するために記録の工夫を行っている。その記録をもとに、利用者一人ひとりの思いや意向について職員間で話し合い、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1カ月(退院時も含む)、その後は3カ月に一度更新を基本としている。またケアカンファレンスを1カ月に1度ユニット会議でおこなっている。</p> <p>(外部評価) 介護計画には利用者や家族の意見や要望を取り入れ、担当の職員が主になり、職員全員で話し合いをしながら作成している。見直しは定期的に行っている。また、利用者の状態に変化が生じた時には、話し合いを行い見直しを行っている。</p>	利用者の日々の記録については、介護計画や目標を意識した記載を心がけ、目標の達成状況が確認できるような工夫を検討することを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) ボランティアとしては、7月より2ヶ月に1回程度シッルビアンナイトの方が来られ、演奏会を開いてくれる。10月には中山町の方が来られ、地域の方を交えた秋の味覚祭を行う予定となっている。また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に24時間対応が可能な連携病院との契約をお願い し、2週間に1回訪問診療を受けている。ユニットに よって訪問日が異なるため、必要時は毎週診て頂く事 が可能となっている。馴染みの先生で安心適切な医療 を受けられるように支援している。また状態やご希望 があれば、他病院の受診もご家族様にご相談し、対応 に関してご家族若しくは施設対応か決定し柔軟に対応 している。 (外部評価) 希望するかかりつけ医での受診や、協力医の定期的な 往診を受けることができる。また、利用者の状態に よって柔軟に対応できるよう医療体制が整えられてい る。家族の協力を得ながら受診支援が行われており、 適切な医療が受けられるよう情報交換が十分に行われ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行い必 要時は主治医へ連絡し指示を仰いでいる。また2週間に 1度の訪問診療時には状態を医師へ報告し個々の利用者 が適切な受診や看護を受けられるように支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、病院関係者と情報交換を行っている 。また入院中も出来る限りお見舞いに行き最新情報 を取り入れることとしている。(入院時には、基本情報 やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退院 時もほぼ同様)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説 明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理 者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた 方針の共有と支援について話し合いを行っている。同 時に看取りケアプランを作成し(連絡/相談/報告しなが ら1週間に1度見直し)職員全体で支援に取り組んでいる (外部評価) 医療機関と24時間の連携体制を構築している。看取 りの経験のある職員を中心に勉強会を行い、受け入れ 体制を整えている。利用者の状態に応じて家族と十分 話し合いを行い方針を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回程度の消防訓練は行っているが災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていきたい。 (外部評価) 災害に関するマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。訓練等を実施した際の反省点や気づいた問題点について検討したいと考えている。スプリンクラーの設置も完了している。	避難訓練等を行った際の反省点や問題点を活かし、より具体的な想定での訓練を行ったり、災害に対する体制づくり等を検討し、利用者が安心して生活が送れるよう今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 基本理念である「その人らしい生活」を支援するため、利用者一人ひとりの日常の状態をよく把握し、一人ひとりに合った対応を心がけている。言葉づかいで不快な思いをさせないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場面を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者個人個人に合うよう支援しています。爪切り等も気をつけてる	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を聞いてメニューに取り入れる。調理の準備を危なくない範囲でやっていただく。準備や片づけ等それぞれ分担してやっていただき、お互いに助け合ってやっていく。 (外部評価) 利用者の好みや季節の物を取り入れながら、職員が立てた献立を各ユニットで調理している。職員も利用者と一緒に食卓を囲み同じ物を食べながら、さりげなく介助したり、会話を楽しむ等、和やかな時間となっている。外食も利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はその方が食べれる量を盛ったり、嫌いな物に関しては、代わりに物を用意したり、無理なく食べて頂くよう声がけをしている。介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄管理表に時間毎記入している。その上で排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をし、自然な排泄ができるよう対応してる。また、排泄後の処理などプライバシーを保てるように努めてる。	
			(外部評価) 排泄のリズムが崩れると体調にも影響してくるため、排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い、自然な排泄ができるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品を朝食時に食べて頂いてる。また、野菜類が多く摂れるようメニューを工夫して自然排便につながるようにしてる。2～3日無い時は緩下剤の服用もして頂いてる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があればできるだけ対応するようにしている。また、入浴時のバイタルチェックや水分補給に努め、脱水状態にならないように気をつけている。利用者が安楽に入浴できるよう雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) 利用者の希望に合わせ、いつでも入浴できるように準備している。気持ち良く入浴してもらいたいと一人ずつ毎回風呂場の掃除をし、新しい湯を入れている。入浴の苦手な利用者には無理強いすることなく、タイミングや声かけ等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調の具合や寒がり暑がりの方のペースに合わせて布団の調整をする。照明を調整する。妨げにならない程度の夜のテレビは意志どおりに見ていただき、終わり次第就寝を促し又の楽しみを話し語り合う。就寝前のトイレ誘導をする。水分補給をする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 訪問診療時の処方が変わった時には申し送り簿で注意を促し、ケース記録に直接記入し職員に申し送りをする。誰が見ても間違いがなく判り易いセットの仕方を工夫している。症状の変化の有無を常に話し合っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビや新聞を見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。できる方には畑作業も取り入れて収穫などの楽しみを共有している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お出かけの計画を立てる前に入居者様から希望を伺っている。皆さんその日が来るのを大変楽しみにされている。また、なるべく全員が出かけられるよう体調の管理に気をつけている。	
			(外部評価) 月1回は利用者の希望を取り入れながら外出や外食ができるよう、ユニット毎に計画や準備を十分に行い実施している。近所の美容院に行ったり家族との外出を楽しんだりしている。また、併設のデイサービスに出かけ交流する等、外出等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小口現金をユニットで管理している。お出かけの時にご自分で払える方にはお金を渡して買い物など支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人からお手紙を出すことはほとんどないが、ご家族様からのお手紙が届くと嬉しそうに笑顔が見られる。電話は職員が窓口となり、ご本人とご家族様が直接話すことができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしていく。毎日、掃除機をあて空気の入替え等も行っている。	
			(外部評価) リビングは、家庭的な雰囲気を保ちながら季節を感じることができるよう飾り付けがされている。食卓テーブルの配置や利用者の目線に合わせた高さに物を置く等、細部にわたり配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内にはソファを置いていつでも腰を掛けて景色を見たり、気の合う方同士でお話をされたりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご入居時にユニット畳若しくはフローリングどちらかを選択して頂いている。家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。	
			(外部評価) 企業の社員寮だった建物をリフォームしており、居室のしつらえには生活感がある。使い慣れた物や好みの物を持ち込み、利用者一人ひとりに合った居心地のよい居室づくりがされている。各居室にはベランダがあり植物を置いたり、外気浴を楽しむこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫を行っている。また、リビングや居室もご入居様が使いやすいよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102401
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション
事業所名	グループホーム すみれの家
所在地	愛媛県松山市北斎院1072-1
自己評価作成日	平成23年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「その人らしく有り続けるために」を念頭に支援を行っている。 ②健康を保ち楽しんで生活していただけるよう3日体操や音楽療法、畑作業、お出かけ等行っている。 ③運動会や盆踊り、秋祭りなど町内会行事への参加やホーム主催で各種行事を計画し、近隣住民との交流を積極的に行っている。また、ホーム主催の夕涼み会実行委員会にはご家族様や近隣住民の方も一緒に参加していただき楽しい行事となっている。 ④併設型施設の有利性を活かしてコンサートや敬老会、消防避難訓練、クリスマス行事をデイサービス利用者様と一緒に取り組み、日常的に交流がはかられている。 ⑤運営推進会議で他施設(グループホーム姫の華様)との相互交流で研鑽を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経験豊かな管理者やベテラン職員、新人職員は協働しながら、利用者一人ひとりの「その人らしい生活」を支援している。協力医療機関と24時間の連携体制を整えており、様々な職種と協力しながら利用者の安定した生活を支えるよう努めている。地域の住民との交流も積極的に行われており、利用者が地域の一員として生活できるよう取組みがされている。利用者一人ひとりの日常の状態をよく把握し、一人ひとりに合った対応を心がけている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 すみれの家

(ユニット名) 花

記入者(管理者)
氏名 山本 誠一

評価完了日 23年 10月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型のグループホームを目指し地域で行われる様々な行事にも参加している。管理者と職員は理念の共有をしている。</p> <p>(外部評価) 職員は、法人全体の基本理念を軸に、穏やかで安心感のある充実した生活を送ることができるよう、常に話し合いながら支援をしている。職員一人ひとりが理念に沿った支援が行えるよう、個人面談や振り返りをしながら意識付けを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域で開催される運動会・市民大清掃・盆踊り・地方祭などに参加し、入居者様と共に交流を図っている。地域内の他施設(グループホーム姫の華)と運営推進会議への相互交流を行っている。医療講演や夕涼み会、秋の味覚祭など計画し、ご家族様はじめ地域の方、通所サービス利用者様との交流を進めている。</p> <p>(外部評価) 開設以来、地域のいろいろな行事に参加したり、中学校の職場体験学習を受け入れている。また、事業所の行事にも参加を呼びかけ、利用者と共に相互交流を続けている。新たに味覚祭として、中山町の産直市を事業所で開催する等、新たな取組みを行っている。</p>	これまで培った地域との交流に加え、産直市等の新しいことに挑戦して行き、事業所がさらに地域の一員として溶け込むことにより、利用者の生活が充実したものになるよう、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎年津田中学生の職場体験学習の場としてホームを提供させて頂いている。その際は入居者様とふれあい、障害を学ぶ場としても活かされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2カ月毎に開催されており、家族様/地区の委員様/市町村の担当者様を交えて話し合いサービス向上に繋がるご意見を頂戴し、ホームの運営に反映できている。	
			(外部評価) 運営推進会議は定期的開催され、運営の報告等が行われている。参加者のそれぞれの立場からの意見や提案が出され、それに対する事業所の返答もきちんと行われている。分かりやすくまとめられた議事録は、玄関に掲示されている。会議で話し合われたことは職員間で共有され、サービスに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃からホームの運営等についてご相談や指示を仰ぎ、2ヶ月毎の運営推進会議開催にご協力いただいている。	
			(外部評価) 介護保険課の担当者や地域包括支援センターの職員は毎回、運営推進会議に参加している。事業所の取組みに対する意見や助言をしてもらう等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間等、ベッドで休んで頂く時や転倒の恐れがあると思われる時はご家族様と相談し、期間を設けて4点柵等拘束の同意書を頂くようにしている。ユニット長会議で毎回議題にし、身体拘束を排除する取り組みを行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束について正しく理解している。止むを得ず行う場合には、必要最低限にとどめるよう家族を含め何度も話し合いを行い、適切なケアが実践されるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会議やミーティングで虐待防止を呼び掛け入浴時や更衣時に身体の確認をしている。声かけなど常に気をつけて気になる事があればその場で注意指導している。また、外部の「虐待防止」講習会等に職員の参加を進め意識を高めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 対象者はいないが、必要性について全員が理解し支援について話し合っていく必要がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様及び家族様と管理者、内容によっては医療関係者と説明を行い十分な理解同意の上で契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様及び家族様のご意見ご要望は、貴重な事と受け止め、どのような事でもひとつひとつお答えできるよう日々のミーティングなどで情報の共有を行っている。またご返答のタイミングはスピードを重視している。 (外部評価) 家族会を開催し家族だけで話し合う時間を設ける等、意見を表せる機会を作っている。日々の支援の内容や、利用者の日常の生活の連絡や報告を密に行っており、話しやすい雰囲気づくりや関係づくりに努めている。意見や要望を真摯に受け止め迅速な対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者が日常的にユニットを訪問し、職員の意見や提案を吸い上げ社内メールや電話にて統括部長に相談している。また2週間に一度のユニット長会議や毎月開かれるユニット会議にも管理者が出席して意見交換をおこない、グループ全体の会議の際にホームからの意見や提案等を伝える。</p> <p>(外部評価) 職員は管理者と話しやすくいつでも意見や要望を言える関係が構築されている。また、管理者は、職員との個人面談を行い、思いや考えを把握するよう努めている。職員の意見や要望に対して迅速な対応を心がけている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務シフト作成時には労働パターンを考慮したり、個人の希望休をできるだけ(1シフトに2回程度)反映できるよう考慮している。9月から全職員との個人面談を行いご意見を頂いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修についてその都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、その都度ユニットに情報を廻し回覧できる仕組みを作っている。また参加を促すために、勤務時間帯に出席できるよう人員を手厚くするような勤務シフトを作成するよう努力している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) ご本人様が安心して生活していけるよう関わりを多く持ち良好な関係作りを行っている。また利用前訪問調査表を基礎知識としながら実際の状態との差を考えご本人様の求める「支援」・必要な「支援」に擦り合わせ、個別の安心を追求する努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に不安やご要望お伺いし、サービス開始後にお話しした事との内容に差がないようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご入居までの流れを資料を使いご説明し、ご入居申し込み～ご入居のご契約～利用前訪問調査時の際に、必要な支援をお伺いし見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人様やご家族様、また介護の中で得られる情報を整理し出来る事を見出し実践できるよう支援している。そこから共有・共感できる関係作りをじっくり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様と家族様の中間的立場を意識し、報告や連絡・相談を密に行い共にご入居者様を支えていけるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 「これまでと変わらない生活」を意識し支援しています。ご面会は※1特別な事情(※1…本人様・家族様のご要望等)がない限りは基本的にいつでも対応可能としている。またご本人様の希望に応じて、時にはご家族様に支援の協力(お墓参り等)を頂いたりしている。 (外部評価) 利用者がこれまでに築いてきた人や場との関係を大切にしよう心がけている。特に家族には、連絡や連携、報告等を密に行い、いつでも面会に来れるよう良好な関係づくりに努めている。入居後新たに築いた人や場所との関係も大切に継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者様が孤立することなく、共に暮らす中で助け合えるよう、レクリエーションや行事に参加して頂くなど共通の話題作りを提供し、生活を楽しめる様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了は殆どが死亡退去か病院でのターミナルを希望されるケースとなるため、どうしても関係性が薄れていく。職員がお見舞いに行ったり、ご家族とお会いする時など必要時は相談を受けたりしている。ホームや病院で亡くなられた方を入居者と一緒に見送る事ができればと思うが、今は未だ出来ていない。いずれは行いたい。小さい施設なので場所の問題もあって難しいがメモリアルルームができると良いと思う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 生活を援助する上で一番大切な部分であり、その時々によっても変化する意向の収集を行い日報等に記入している。またその情報を活かせるようショートミーティングを開き実践している。 (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で得る情報は多く、あたりらしい気づき等を職員全員で共有するために記録の工夫を行っている。その記録をもとに、利用者一人ひとりの思いや意向について職員間で話し合い、利用者本位のケアが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等が分かるような聞き取りを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用前訪問調査時の際に、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の状態が分かるような聞き取りを行っている。ご入居後にも、情報を基に生活のリズムに沿って心身状態、有する力の把握をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人様、家族様の意向を確認し、プランに反映している。ご利用開始時は初回作成として1カ月(退院時も含む)、その後は3カ月に一度更新を基本としている。またケアカンファレンスを1カ月に1度ユニット会議でおこなっている。</p> <p>(外部評価) 介護計画には利用者や家族の意見や要望を取り入れ、担当の職員が主になり、職員全員で話し合いをしながら作成している。見直しは定期的に行っている。また、利用者の状態に変化が生じた時には、話し合いを行い見直しを行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 職員間で情報を共有しながら、職員しか知り得ない事柄やケアの気づきを具体的に記入しながら介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出希望等の急なニーズ等にも出来る限り対応できるよう努力している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) ボランティアとしては、7月より2ヶ月に1回程度シッルビアンナイツの方が来られ、演奏会を開いてくれる。10月には中山町の方が来られ、地域の方を交えた秋の味覚祭を行う予定となっている。また近隣の美容院より出張サービスがあり、利用をしている。また可能な限りご本人様と共に美容院へ徒歩で出向く事</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に24時間対応が可能な連携病院との契約をお願い し、2週間に1回訪問診療を受けている。ユニットに よって訪問日が異なるため、必要時は毎週診て頂く事 が可能となっている。馴染みの先生で安心適切な医療 を受けられるように支援している。また状態やご希望 があれば、他病院の受診もご家族様にご相談し、対応 に関してご家族若しくは施設対応か決定し柔軟に対応 している。 (外部評価) 希望するかかりつけ医での受診や、協力医の定期的な 往診を受けることができる。また、利用者の状態に よって柔軟に対応できるよう医療体制が整えられてい る。家族の協力を得ながら受診支援が行われており、 適切な医療が受けられるよう情報交換が十分に行われ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 表情や体調等に変化があれば、看護師に相談を行い必 要時は主治医へ連絡し指示を仰いでいる。また2週間に 1度の訪問診療時には状態を医師へ報告し個々の利用者 が適切な受診や看護を受けられるように支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時には、病院関係者と情報交換を行っている 。また入院中も出来る限りお見舞いに行き最新情報 を取り入れることとしている。(入院時には、基本情報 やお薬の説明、入院までの経緯を提供している。退院 時もほぼ同様)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご入居の際に一律に「看取りに関する指針」を提示ご説 明している。時期が来た場合に家族様、主治医、管理 者、ユニット長、看護師にて重度化や終末期に向けた 方針の共有と支援について話し合い、看取りケアプラ ンを作成し(連絡/相談/報告しながら1週間に1度見直 し)職員全体で支援に取り組んでいくことにしてる。 (外部評価) 医療機関と24時間の連携体制を構築している。看取 りの経験のある職員を中心に勉強会を行い、受け入れ 体制を整えている。利用者の状態に応じて家族と十分 話し合いを行い方針を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。また一目で分かるようなフローチャートも作成し掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し設置している。年に2回程度の消防訓練は行っているが災害対応の実践力に関しては課題が残されており定期的な訓練を行っていきたい。 (外部評価) 災害に関するマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。訓練等を実施した際の反省点や気づいた問題点について検討したいと考えている。スプリンクラーの設置も完了している。	避難訓練等を行った際の反省点や問題点を活かし、より具体的な想定での訓練を行ったり、災害に対する体制づくり等を検討し、利用者が安心して生活が送れるよう今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々のショートミーティング時や月に1度のユニットカンファレンスの際に個別対応についての報告連絡相談を行い一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 基本理念である「その人らしい生活」を支援するため、利用者一人ひとりの日常の状態をよく把握し、一人ひとりに合った対応を心がけている。言葉づかいで不快な思いをさせないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事形態や衣類選定等で希望表出/自己決定の場面を数多く設けられる様に見守りや声掛けの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室で過ごしたい時は居室で…等やりたい事がある方にはこちらの流れを押しつけず自分流の方法で過ごして頂く様見守りを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者個人個人に合うよう支援しています。爪切り等も気をつけてる	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を聞いてメニューに取り入れる。調理の準備を危なくない範囲でやっていただく。準備や片づけ等それぞれ分担してやっていただき、お互いに助け合ってやっていく。 (外部評価) 利用者の好みや季節の物を取り入れながら、職員が立てた献立を各ユニットで調理している。職員も利用者と一緒に食卓を囲み同じ物を食べながら、さりげなく介助したり、会話を楽しむ等、和やかな時間となっている。外食も利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の量はその方が食べれる量を盛ったり、嫌いな物に関しては、代替りの物を用意したり、無理なく食べて頂くよう声がけをしている。介助の必要な方に対しては食べ易くカットしたりミキサーやトロミにて一人ひとりに応じた食事形態を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨き、うがいの出来ない方にはガーゼを湿らせて拭き取る。忘れる方へは出来るところまで声掛けをしていき後のケアを介助していく。義歯は就寝前に外し洗浄液につけている。口腔内のチェックを常に行い、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄管理表に時間毎記入している。その上で排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をし、自然な排泄ができるよう対応してる。また、排泄後の処理などプライバシーを保てるように努めてる。	
			(外部評価) 排泄のリズムが崩れると体調にも影響してくるため、排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い、自然な排泄ができるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品を朝食時に食べて頂いてる。また、野菜類が多く摂れるようメニューを工夫して自然排便につながるようにしてる。2～3日無い時は緩下剤の服用もして頂いてる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があればできるだけ対応するようにしている。また、入浴時のバイタルチェックや水分補給に努め、脱水状態にならないように気をつけている。利用者が安楽に入浴できるよう雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) 利用者の希望に合わせ、いつでも入浴できるように準備している。気持ち良く入浴してもらいたいと一人づつ毎回風呂場の掃除をし、新しい湯を入れている。入浴の苦手な利用者には無理強いすることなく、タイミングや声かけ等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室温や寝具の調整をし、快眠できるよう対応してる。楽しみにされてるテレビはある程度まで観ていただき、職員の都合で消灯しないように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録に往診時の内容や薬の変更等について記入し、職員全体で確認できるようにしてる。また、一目で分かるよう毎食後薬セットを用意して誤薬防止に努めている。訪問診療時に処方が変わった時は申し送り簿で注意を促している。症状の変化の有無を常に話し合っていくようにしてる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の得意分野を理解した上で体調や表情を見ながらお願いし達成感を感じていただいている。毎日のテレビや新聞を見ながら、世相などを話しコミュニケーションを図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の旬の果物や催し物を把握して、月2回程度、おでかけやドライブを行って楽しんで頂いてる。	
			(外部評価) 月1回は利用者の希望を取り入れながら外出や外食ができるよう、ユニット毎に計画や準備を十分に行い実施している。近所の美容院に行ったり家族との外出を楽しんだりしている。また、併設のデイサービスに出かけ交流する等、外出等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小口現金をユニットで管理している。お出かけの時にご自分で払える方にはお金を渡して買い物など支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人からお手紙を出すことはほとんどないが、ご家族様からのお手紙が届くと嬉しそうに笑顔が見られる。電話は職員が窓口となり、ご本人とご家族様が直接話すことができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間トイレ使用時トイレ周りの照明を点けておく。個人に合わせた温度設定をする。昼間横になる時にはカーテンを閉め眩しくない様にしていく。毎日、掃除機をあて空気の入替え等も行っている。	
			(外部評価) リビングは、家庭的な雰囲気を保ちながら季節を感じることができるよう飾り付けがされている。食卓テーブルの配置や利用者の目線に合わせた高さに物を置く等、細部にわたり配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや椅子に腰を掛けて、気の合った方どうしがお喋りができるような工夫してる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご入居時にユニット畳若しくはフローリングどちらかを選択して頂いている。家具類、テレビ、布団、衣類等身の回りの全ての物品はご家族と相談し環境が許される限り本人の好みの物、使い慣れた覚えのあるもので揃えるようにしている。	
			(外部評価) 企業の社員寮だった建物をリフォームしており、居室のしつらえには生活感がある。使い慣れた物や好みの物を持ち込み、利用者一人ひとりに合った居心地のよい居室づくりがされている。各居室にはベランダがあり植物を置いたり、外気浴を楽しむこともできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの身体機能及び安全・安楽を考慮した工夫を行っている。また、リビングや居室もご入居者が使いやすいよう工夫している。	